

シリーズ  
原発・いのち・みらい  
その69

東電福島原発事故

当時6〜16歳の甲状腺がん患者が東電提訴

原告の思いは

片山 夏子（東京新聞福島特別支局長）



写真1 2度の手術で甲状腺を全摘した26歳女性。手にする薬を生涯飲む必要がある

人を含む事故後に福島の子どもたちに見つかった甲状腺がんの多くが、チエルノブイリ原発事故で小児・若者層に確認された乳頭がんであり、遺伝性ではなく、被ばく以外の原因は考えられないと主張する。

17歳で告知 成人式迎えられよかった…

福島県中通りに住む女性（26）は2013年3月、17歳の時に甲状腺がんを診断された。

「手術しないと23歳まで生きられないかもしれない。医師には手術で完治する」と説明されたが、女性には4カ月後の手術前日は不安と恐怖で眠れなかった。手術後は声がかたくなり、2カ月以上声が出ない状態が続いた。

**片葉切除、再発で全摘 日常と将来に大きな不安**

提訴したのは、事故当時幼稚園児から高校生で、福島県中部の中通り地域に住んでいた4人と、県西部の会津地方と県東部の浜通り地域に住んでいた各1人。現在は県内や首都圏で高校生や会社員、アルバイトをしている。

6人は、福島県の県民健康調査などで甲状腺がんと診断され、2人は甲状腺の片葉を切除、4人は再発により全摘しており、アイソト



写真2 「差別されるのでは」と、私たちが誰にも言えずこの10年を過ごした原告の女性



写真3 東京電力を相手取り提訴するため、東京地裁に入る原告弁護団ら=2022年1月27日、東京都内

見られる。肺の待った。女性のがんを示す数値は「私は無自覚の時に検査で見つかった。検査を縮小したら助かる命も助からないかもしれない。今、結婚や出産は考えられない。原発事故と関係ないというが、それが300万人の子が甲状腺がんになっているのだから、原因を原発事故と認めてほしい。」

手術前の検査もつらかった。CT検査の造影剤を体に入れると、強烈な気持ち悪さに襲われた。長い注射針を喉に刺して細胞を採取する検査（穿刺吸引細胞診）は針が奥に入るほど痛みが増した。

母（57）は娘が告知された日が忘れられない。「まだ17歳なのに。娘には大丈夫だと言いつつ、夫と二人の時に泣いた。常に明るく振る舞う娘が、成人式の日、父親に「着物が着られてよかった」と言ったことを聞き、ああ、死も考えていたんだと思うと涙が止まらなくなった。「事故後、食べ物も水も気にせず暮らしていた。あの時、避難していたら…」いろいろな思いが頭を巡った。

3回のアイソトープ治療も受けた。大量の放射性ヨウ素を飲むため、入院時は白い独房のような部屋に隔離された。放射線を遮る鉛入りの窓ガラスから、ひたすら外を見て時間が過ぎる

女性は東京の大学に行きたかったが、母親に止められ隣県に。半年後、女性の体調が悪化した。「残った片葉にも再発が



写真4 提訴の後の記者会見で話す弁護団と男性原告の母親（右端）。原告の息子は甲状腺がんだと明かしたら、3社から就職を断られたという

**◆片山夏子**  
中日新聞東京本社（東京新聞）の記者。東日本大震災発生翌日から原発事故取材し、2011年8月から原発作業員の日常や家族への思いなどを綴った「ふくしま作業員日誌」を連載。著書『ふくしま原発作業員日誌』イチエフの真実、9年間の記録（朝日新聞出版、2020年）が第42回講談社本田靖春ノンフィクション賞など3賞受賞。昨年12月に当会主催第19回原発・いのち・みらいシリーズ講演会で講師を務め、好評を博した。

治療や手術によって、大学中退、希望職種への就職断念、正社員の仕事を離職しなくてはならないなど、日常や将来に大きな影響が出ている。

「手術しないと23歳まで生きられないかもしれない。医師には手術で完治する」と説明されたが、女性には4カ月後の手術前日は不安と恐怖で眠れなかった。手術後は声がかたくなり、2カ月以上声が出ない状態が続いた。

小児甲状腺がんは年間100万人に1〜2人程度の希少ながん。女性が提訴を決定したのは、福島で事故当時18歳以下で300人弱の甲状腺がんまたは疑いが見つかると、国も県も通常の「数十倍多い」とするが、因果関係は現時点では認められないと否定していることとや、生涯治療の必要のないがんを見つけている「過剰診断」だとして検査縮小

首都圏に住む福島県中通りに医師から「原発事故と関係ありませぬ」と言われ、強い違和感を覚えたことが「事故直後の避難者への今も心に残る。また甲状腺差別もあり、甲状腺がんががんの保険診療の医療費差別も言え、差別された」と言え、差別された

女性には、がんの告知直後から「原発事故と関係ありませぬ」と言われ、強い違和感を覚えたことが「事故直後の避難者への今も心に残る。また甲状腺差別もあり、甲状腺がんががんの保険診療の医療費差別も言え、差別された」と言え、差別された

甲状腺がん 多発はなぜ？

差別が怖い10年間 黙し続けた原告

日本の現状を変える きっかけになれば